

# 一男の保育日記をめぐりて(二)

附屬幼稚園 園長  
杉久 山米 米京 子子  
幼 兒 の 母

## 保育日記の一節

六月×日 皆でお相撲をして居たが、S平さん  
こだけはさうして  
も取組まなかつた。

何處へ行つても双葉山、男女の川さお相撲ばやりの此頃、幼稚園でも早速厚いマットをお部屋に運んで臨時本場所が始つて居る。「見合つてい〜、…のこつた〜」S Fさんの本場仕込みの名行司ぶりに、可愛い二人の双葉山二人も双葉山だき云つて名乗りをあげてゆづらないので、たう〜兩方さも双葉山になつて取組んで居るのだがお相撲して居る。KさんCさんは丁度よい取組みで、此の二人ださいつも大相撲が展開される。あちらこちらで、

「Kさん強いね、今負けさうになつたよ。」

「Cちゃんだつて強いよ、先刻Sさん負けしたんだもの、あんな真赤な顔してるから金太郎みたいだ。」

「二人も同じに強いんだよ、だからさつちも負けなないのさ。」

科学的な批評家も現れる。さにかく、二人も強いさいふ事に意見は一致した。其の中に僅にKさんがCさんを押出して、何さなく皆がホッとした時、此の場所が一番強いさ自他共に許して居るS平さんが、

「僕さしやう。」

さ土俵ならぬマットの上さび上つた。

「厭だァー」Kさん、

「いゝじやアないか、すれば…:Kさん強いんだから…」

「S平さん

「厭だァー」負けるつて判つてるんだもの、つまらないや。」

「じやアね、僕足かけしないから…:、ねさしやうよ。」

S平さんは足がらをかけるのがお得意なのだ。

「でもいやだァー。」

「大丈夫、Kちゃん勝つかも知れないわよ。」

Y子さんが慰さめる。だがKさんは一度厭さ云つたら後へは引かない。だん〜空模様が危しくなつて来る許りなので、「それじやア、之皆で片付けてお歸りのお支度しませ

うね、先生がこつちから引きますから皆さんで押して頂戴、Kさん其處押して頂戴」ミマットを又元の場所へ運んだ。斯うして雨は降らなかつたがS平さんミKさんは遂に取組む事なく終つた。力及ばず見極めた所へは決して足を踏み出さないKさんだつた。之と同じやうな事が又暫くたつて十一月の日誌にも出て来た。

十一月×日 暮進して来る汽車を斜前方から見た所を描く。立體的だ。

十一月×日 今日の汽車の繪、遠近法がちやんミ出來て居るので驚く。

十二月×日 ボールドに朝早くから機關車、客車、貨物まで續けて大きな繪を描く。お辨當まで續けた。

斯うした汽車への興味が、かなり長い間續いた頃の事だつた。今迄にも自動車なら自動車、飛行機なら飛行機、一度興味を持ち出すミ、自由畫にもハリエにも、當分それ許りを續けて扱ふ事があつた。初め私は自己暗示の現れかミ案じたが、それにしては唯題材が同じだけで構圖はいつも何かしら違へて複雑化して行くので、之は打込んだ興味の繼續だミ安心し且喜んだのであつた。所が或日、それはお友達同志お互に交換する繪を描いて居た時の事だ。

「今日僕F子ちやんに上げる繪描くよ。」ミKさんがF子さんに云つて居る。

「さうそれじやーね、從軍看護婦の繪を描いて頂戴。」  
「從軍看護婦つて？」

「戦争に行つてる看護婦さんの事よ、知らないの？、ね、それ描いて頂戴。」

「駄目だよ描けないから……。」

「だつて看護婦さん知つてるでしょ？」

「うん、知つてるよ。」

「だからそれ描いて頂戴。」

「駄目だよ、僕よく知らないんだもの。」

斯うして其の日の繪はやはり停車場に入つて来る汽車だつた。私は此の問答を聞き乍ら、いつかのお相撲ミ考へ合せて、自信のある事でなければ決して人前でしないKさんを思つて微笑を禁じ得なかつた。比の日の日誌には

十二月×日 F子さんの繪の注文、君子危きに近よらずミ、  
たうく斷つた。

だがそれから、今迄餘り人物を描かなかつたKさんの繪に、汽車や自動車ならそれに乗降りする人、通行人、見物人、飛行機には飛行士ミ云つた様に、大いに人物が現れて来た。

### 母親の感想

繼續的に一人の子供の發育記録をミつて見度いミ思つてゐました私は、あの子の所謂錯畫時代から、入園當時まで

畫を残らず保存して持つてゐます。之をエングの『描畫の發達』の中に出て来る一女兒の描畫發達や、彼の蒐めた數人の例に比べますと、非常に違つてゐます。エングの結論では殆んゞ全部の子供が人物の畫から入つて、ずつとその後人物が主要な畫題となつてゐるこゝろです。あの子は圓がやつと書ける様になつて先づ第一に描いた畫題は時計でして、圓の中に點を幾つか書いて、デンデンと云つて喜んでゐました。その後目鼻らしいものを書き入れて、ママチャン、パパチャン等と云つた時代が、一寸の間ありましたが、自分で望んでゐる程、自分の手の動かないもごかしさに愛想をつかしたらしく、あの子は間もなく鉛筆を持つ事を斷念してしまひました。それから半年も経つた或る日、あの子は久しぶりに珍らしく鉛筆を持つて、自動車の形をスラ／＼と書き下しました。自分自身でもビツクリしたらしく、

「ボンチャンノテテ、ウゴクヨウニナツタ」

と、満足さうに告げた事がありました。それから毎日數枚のオエカキを續けてゆきましたが、いつもいつも自動車ばかりで、何とおだてて見ても人物畫は、せいぜい一年に四五枚位しか書きませんでした。自動車の細部が段々つけ加へられてゆくのです。あの子は矢張り自分で定めた學習のコースにのつて畫を書いてゐるらしいのです。幼稚園に

入つてから、あの子の畫題が偏よつてゐる事を、いろ／＼心配してゐて下つた先生が、ある朝私に、「Kがこんな畫を書きました」と仰言つて、「バスに乗らうとしてゐる父親と自分」の畫を時々お示しになりました。その畫を先生にもほめて頂き、自分でも満足だと思つたのでせうか、あの子はこゝで始めて人物畫に興味を見出した様子なのです。實はこの畫を畫いた數日前に、家で突然、實に達者な筆致で、従軍看護婦の畫を書きました。私もビツクリしましたが、彼自身も驚いたらしく、それから毎日家では人物畫を書いてゐましたが、その數日後に、前に云つた人物畫を、はじめて幼稚園で書く様になつたのです。かうしてあの子は何時にも新しい刺戟を拒絶し乍ら、きわめて徐々に啓發されてゆくのでした。『自信のある事でないければ決して人前でしない』といふ事は、彼の學習を誠にギョチなくする事で、度々先生から御心配頂き、もつと無邪氣に反應してくればと、私も實にもごかししく思ひました。過去に遡つて精神分析的に見ても、その様な習慣を形づくつた後天的の原因はさうしても見當らないのです。まだほんの小さな赤ちやんで、あほ向けにばかり寝てゐたあの子が、始めて獨力で横向に向きかはつた時は、非常に苦心したものでして、唇を紫色にして、あへぎ乍らやつと向を變へたものでした。始めて子供を育ててみて、物を習ふには、こんな

も苦勞しなければならぬものかき、傍の見る目も痛ましい思ひでした。いろくゞ文獻も見てみましたが、こんな例を書いたのは無い様であります。たゞ一つシン女史の姪が、始めて匍ひ出す時、非常に苦しんだ様を書いたのがありますが、これは彼女が足にまきひつく様な昔風の長い著物を著せられてゐたせいであらうと結論されてあります。

あの子の場合は夏で、裸體に近い服装だつたのです。始めて匍ひ出す時や、立つ時にもあの子は丁度同じ様に苦しみました。最初は、頭部が割合に重いといふ身體的な原因に依るものだらうと思つてゐましたが、自轉車を繰るゝか畫を書く様な時になつても、何時も力以上の事を爲ようゝおせり苦しむ所を見ますと、原因はむしろ他にある様に思はれます。幼稚園に入る頃になりますと、此の學習の苦しみを人に示す様な事をはばかりになり、自分の力に及ばないを知るゝ、他人から勵められても、『イヤ』と云つて、一向應じない様になつたものと見えます。よく算術の問題を出してもらひたがつて、せがむのですが、ある時機になるゝ、フツとそれを斷り、一、二ヶ月も經つてから、突然非常に進歩したところを示して、さもホツとした様な満足氣な様子を致します。あの子は何かしら自分で自分自身の學習課程の法則を見出してやつてゐるらしいのです。赤ん坊の時に脣を紫色にしてまで起きかへらうとしたあの子を知つて

居ります私は、決して無理な勵ましの言葉をかける氣にならないのですが。

よく他人様からあの子が天心爛満だとか、無邪氣だとか云はれますが、あの子が内部的に持つてゐる性格的なギョチなさを、何にかして軽くさせてやりたいと思ふ心が切でございます。

#### 保育日記の一節

一月×日 今日珍しくN夫さんさけんかをして泣いた。

几帳面の爲だ。

「先生KちゃんN夫さんがけんかしてるの」

「先生KちゃんがN夫ちゃん帽子でぶちつこしてるの、

今二人も泣いてるの」

「先生NちゃんがKちゃんのお帽子掛けに帽子かけたんだつて、それでKちゃん怒つて居るの」

やつぎ早やに御注進が来る。一時に八人の訴えをお聞きになつた聖徳太子様の事も思ひ出される。然し何はともあれ、いつもけんかなさ思ひも及ばない二人の名なので、現場であるお帽子かけの所にかけて行く。二人で向ひ合つてしゃくり上げて居る様子の可愛い事！

「まあく二人で泣いてさうなかつたの？」

「……」

「さ、泣かないでお話して頂戴な。」

「だつて……僕の帽子かけに……Cちゃんの帽子をN夫  
ちやんがかけたんだもの。」

「ぎれ〜にKさんが説明始めるさNさんも

「だつて僕落ちたから……お帽子のない所へ掛けたんだ  
よ。そしたらKちやんが怒つたんだもの。」

「違ふよ〜、僕がいくら僕のじやないつて云つても君の  
だ〜つて云ふから不可ないんじやないか。」

私は場所柄も辨へず笑ひさうになつた。可愛い二人の話  
は斯うである。親切なN夫ちやんが落ちて居た帽子を丁度  
帽子かけのあいて居たKさんの所へ掛けてあげた。そこへ  
Kさんが来かゝつて「それ僕のじやないよ。」と云つた。K  
さんはさつきお外で戦争ゴッコの時かぶつてお部屋に置い  
て来たのだつた。だから、僕のおぢやない〜といくら斷つ  
ても、N夫さんはKさんの帽子が他にある事を知らないか  
ら、帽子かけの空いて居るKさんのに違ひないよと云つて其  
處へ掛けやうとする。几帳面なKさんにして見れば、たゞ  
へ今空いて居ても自分の掛ける場所に他の人の帽子をかけ  
るのなご全く厭ふ事なのだ。たう〜親切な几帳面が意志  
の疎通を缺いて爆發して手にものを云はせた譯、二人の特  
質が如實に現れて本當に面白い事件だつた。

x x x x x

あの時のKさん、此の時のKさん、日誌の頁を繰り乍ら

思ひ出は盡きない。あれも書かなければKさんの面影が出  
て來ない、あゝ此の事も、さ、筆のまはらないのでもごか  
しい。未だ本當のKさんの何分の一の面しか描かれては居  
ないが、此のあたりでKさんのお母様に此のペンのバトン  
をお渡しする事にする。

### 母親の感想

あの子がお友達さごんな風につきあつてゐるかさ云ふ事  
は、家庭で見聞出來る機會が至つて少いので、はじめて幼  
稚園で皆様さ御一緒に生活を始めた時、先づ家の者の興味  
の中心さなつた事でした。幸ひ先生の深い御理解により、  
心ゆくまで參觀をさせて戴く事が出來まして、お友達の誰  
彼の印象も、大體は捉む事が出來ました。而も母親に見ら  
れてゐるさ云ふ感情は、あの子の行動を幾分束縛する様で  
すし、周圍のお友達の方々も、何ものかを意識なさる様で、  
さうさう、あの子の社交的な方面を、はつきりさ捉む事が  
出來ませんでした。慾を云へば、エール大學の附屬保育室  
にあつた様な、大きな白エナメル塗の金網が、一方の壁に  
なつてゐて、外からは見えるが、内から外は見えないさ  
いふ様な装置でもあつたら……。そしたら誰も煩はす事なし  
に、子供の行動を觀察出來る事だらう等と、誠にせいたく  
な夢をゆめみた事もありました。

そこで二年もの永い間、あの子をお育み下さつた先生を

お煩らはせして、性格診断用紙（クレッチェネルの學説に基いたもの）に、おの子の特徴を御記入戴きました。それは、三十二項目の性格的特徴が、内向性、外向性の二種に分けてあるものですが、そのうち十六項目は外向性、六項目が内向性、他の十項目はどちらにもつかないで、御診断を戴きました。全體として外向性で、社交的な子供といふ事になる様でございます。本校の古川先生のお説によれば、此の外向性性格は、血液型B型と關係があるこの事です。あの子の血液型は、矢張りB型でございます。同年齢のお子様を、あまり知りません私共には、あの子の特徴を捉へる事は誠に難かしく、せいぜい妹と比較して見る丈で、あたらう、かうたらう、と推察してゐたのですが、先生の御診断は、大部分私共の推察に一致して居ります。此の診断用紙の項目のうちの一つに、『几帳面』といふ事、『人づきあひがよい』といふ事とが、對照的な一對として出てゐますが、先生はあの子がその両面を持つてゐるといふ診断を遊ばしました。私共も日頃似た様な感じを持つて居りましたので、先生の日記を拜見して居りまして、けんくわをしてゐる有様が目に浮ぶ様で、つひ唇が綻びてしまひました。

X X X X

思へば二年の昔、母親の私が、あの子たつた一人を、扱

ひ兼ねる事があつた程、はげしい所のあつた子供でしたが……。お優しく、御理解深い先生の、お手厚い御愛撫のみに、大勢のお友達に混つて、勢一杯の生活をして、満ち足りた日々を送る様になつてから、勢力の剩餘のためか、幾分荒く激しかつたあの子が、次第におだやかになつてまゐりました。そして右にも左にも容易く動きさうな、傷き易く頼り無かつたあの幼い生物も、先生の適切なお取扱ひによつて、今は人生に處する根本的な態度を確立した様に思はれます。先生は慈み育んで下さるもの、友達には、愉快に協力出来るもの、勉強には面白いものを感じます。好もしい性情の芽生えが、確かにされた様に思ひます。ほんさうにお蔭様で、母親の最も重要な役目の一つは、もう果させて戴いた様な氣安さを感じて居ります。幼稚園の生活によつて、あの子が健全に伸して戴いたばかりで無く、母親一年生としての私までも、母親としての務を教へられ、啓發された事が誠に多く、有難く思つて居ります。なほ又、幼児の心理學に特別の關心を持つて居りました私は、幼稚園の中の、何も彼もが興味深いものでしたので、時々先生をお煩らはせして、色々便宜を與へて戴きました事を、深く感謝して居ります。(完)